

「 倫理 」 シラバス

学科	普通科	学年	3 年	類型	I ・ II	組	1 ・ 2 組	単位数	4
使用教科書	高等学校 新倫理（清水書院）								
副教材等	なし								

1 学習の到達目標

① 人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりするための知識や技能を習得する。
② 授業での学習や探究活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けることができたか。	(1)(2)(3)(4)(5)(6)
思考・判断・表現	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養うことができたか。	(3)(4)(5)(6)
主体的に学習に取り組む態度	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めることができたか。	(3)(4)(5)(6)
評価方法	主な評価項目	
ペーパーテスト	(1)定期考査 (2)小テスト	
学習状況の観察	(3)毎時間の授業への取組、倫理に関する内容の知識・理解や興味・関心	
発表	(4)倫理に関する内容の知識・理解や興味・関心、発表資料及び内容	
課題レポート	(5)倫理に関する内容の知識・理解や興味・関心、調査方法、表現方法	
ノート	(6)学習内容の効果的なまとめ	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	第1編 現代を生きる自己の課題 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	- 個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者とともによりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解する。 - 古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。	(4)
	第2編 人間としての自覚 第1章 哲学の始源：ギリシア思想		(5)
	第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教		(4)
	第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教		
	第4章 芸術と倫理		
二 学 期	第3編 現代をかたちづくる倫理 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究	- 古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己とのかかわりにおいて理解する。 - 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現する。	(4) (5)
	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と精神文化		(5)
	第2章 日本の近代化と人々の生き方		
	第3章 主体的な生き方と価値観の模索		
三 学 期	第5編 現代における諸課題の探求 第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 第2章 社会や文化にかかわる諸課題	- 生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。 - 福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見いだし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。	(4)(5)

備考 (1)(2)(3)(6)については、全ての単元において評価項目として用いる。